

## 西南小にはもうサンタが来たらしい

サンタクロースの存在を信じる子どもは、小一〜三で約八割、小四以上は四〜五割程度となるそうです。ちなみにアメリカ人の子どもは、さすがに人口の六割がキリスト教徒だけあって、日本人の子どもより一〜二割ほどサンタを信じている子どもが多いようです。（おわかりのこととは思いますが、信じている子どもにはこれを読ませてはいけません）

今日は西南小にサンタさんが来たそうです。子どもたちを褒めつつ、欲深くもさらに良い子になるよう話したようでした。子どもたちが喜んでかどうかはわかりませんが、子どもたちの良いところをもっと伸ばすように、三つのカードをプレゼントしたようです。



一つ目は、「もっと元気になれるカード」です。もともと元気ですが、益々元気で健康に過ごせるようにという願いが込められています。他校では学級閉鎖、学年閉鎖があったと聞いておりますが、西南小は先週の金曜日に一学級を昼から帰したのみです。先日のコロナ明け初の持久走大会では、「おじねん」と「をじねん」が飛び入り参加していましたが、各学年の元気に驚いていました。六年生をはじめ各学年とも、本当に歩く児童が少なく、自分の精一杯の力を出して走っていました。そんな子どもたちですから、このカードでまたどれだけ元気になるのでしょうか。恐ろしいほどに元気になるのではないのでしょうか。

二つ目は「もっと勉強がわかるカード」です。「西南算数伝説」を打ち立てようが立てまいが、取組は今後も続きます。様々なこと、ものを見て聞いて触れて、豊かに感じ、希望にあふれる人生を送って欲しいからです。そのための学力です。サンタさんは、「これは（勉強を）やらずにわかるようになるカードではない」と、釘を刺していました。ところで、ある担任は、答案のコピーを採点してみました（本物は業者採点）、これまでにないようなマルの多さに伝説への期待感が増したそうです。もしかしたら、



問題が易しかったのかもしれないし、県や全国はもっとマルが多いのかもしれないというネガティブな考えをもたず、「何か出来た気がする」とポジティブに考えてしまったのかと苦笑しました。（「アンタもね」と言われそう）そんな西南小が大好きです。

三つ目は、「もっとやさしくなるカード」です。今朝もSPC※今年最後の活動を行いました。白い息を吐きながら、落ち葉をかき集め、袋に詰めていました。最近のSPCは、各自の自主性が高まり、益々活動が盛んになってきました。グループで活動する子どもたちもいれば、昇降口を朝から一人で黙々と掃き掃除をする子もいます。このように校内の複数箇所でも活動する姿が見られるようになりました。また、SPCでなくても今朝は学校そばのゴミ捨て場がクラスに荒らされて散らかっている様子を見かねて、片付けてくれた児童がいたと聞きました。当人はことさらそれをアピールするわけでもなく、本当にそうした行為が尊いのです。また、今日の午後、いじめ・不登校対策委員会という校内会議をしました。そこで、ある児童の悩みとして次のような内容がありました。

「自分が本当に人の役に立っているのか不安です」  
このようなことを日々悩みながら生活している子どもが、人の役に立っていないわけがないと断言できます。この児童の優しさに癒されている人が必ずいます！

最後になりましたが、二十一日（土）の門松作りでは大勢の保護者、地域の皆さまにご協力いただき大変ありがとうございました。ただ、松や南天の装飾が少し寂しかったことから、門松の装飾について、安心メールで保護者・地域の皆さまにご協力をお願いしました。すると、あつという間に大変豪華な装飾になっておりました。どなたがご協力いただいたのかわかりませんが、本当にありがとうございます。西南小校区のサンタさんのプレゼントだと思っています。

大変豪華な装飾になっておりました。どなたがご協力いただいたのかわかりませんが、本当にありがとうございます。西南小校区のサンタさんのプレゼントだと思っています。